

## 第 2 回留学報告書

### 今学期の振り返り

前の学期と引き続き授業主体の生活を送りました。今学期の授業では前の学期と同じく、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、数学の授業を履修しました。授業自体は5月中に終わっていたのですが、6月には Qualifier Exam と呼ばれる、ミクロ経済学とマクロ経済学の一年間の総まとめの進級試験に合格しました。NYU では2回のチャンスが与えられ、両方不合格になると退学になります。NYU はこの進級試験の合否判定が寛容な事と自分自身が修士課程を日本でやっていることから、1回目の試験で合格することは当然のことでなければなりません。1回目の試験で落ちてしまうと、8月にまた試験を受けなければならず、一年目の終わった夏休みを陰鬱な気持ちで過ごすこととなります。

基本は落ちない試験において、不合格になる可能性をゼロに近づけるべく、授業終了後からはこの試験の対策を試験当日まで約1ヶ月弱準備をしました。正直なところを言うと、最初の一週間くらいで過去問を解いてしまうと、このテスト勉強に飽きてしまい、自分の進みたい研究分野の文献を読み進めることに残りの期間をそれなりに使っていました。この試験は所詮一年目の授業のまとめであり、過去問さえ解ければ対策は完了したも同然でした。それでも、試験の問題次第では不合格となってしまうかもしれないという悲観的な考えが当日の試験まで脳裏に常にあり、ストレスが溜まってしまいました。他の大学では一年目のコアコースでの成績優秀者は Qual を免除される制度があり、NYU もこの制度を導入して欲しいものです。

### 次の学期の展望

二年目は各々の専門科目を中心に履修をしていくカリキュラムになっています。NYU では2つの専門の要件を満たすことが要求されています。私は Financial Economics と Econometrics を選択する予定です。Macroeconomics や Monetary Economics という選択肢も考えましたが、先輩から聞いた授業の評判と内容を考えると、上記二つの専門科目の方が研究に直結すると考えました。マクロ経済学関連の授業は三年目以降で顔を出したいと思います。また、Financial Economics の論文の中には自分が現時点では扱いきれない高度な数学を用いるものも存在するので、数学科の授業にも必要に応じて出席していきたいと思います。

二年目の専門科目の要件としては、授業を履修するだけでなく、Financial Economics で論文を一本提出しなければなりません。他の専門ではこの論文要件がないこともあります。個人的にはこの要件を好ましく考えております。研究を早くから意識することができますし、何より、博論のアドバイザーになりうる先生方から指導を受けることができます。この二年目の論文を直近の目標として、この夏の間にはリサーチクエスションをたてていきます。

自分の授業と研究以外の仕事として、次の学期に Ph.D.のマクロ経済学の Teaching Assistant (TA) をやることになりました。これはちょうど私が一年目の最初の学期で履修したものです。御財団から奨学金をいただいていることと、NYUからのFellowshipが特にTAやRAの要件がないことから、金銭面ではこの仕事を引き受ける必要はありません。ただ、教授から直接お願いされたことと、担当教授に今後の研究面で世話になる可能性が高いことを考えると、断るという選択肢はありませんでした。専門科目の授業をとっているときにTA業務に時間を割かれるのは気が進みませんが、英語の練習になるのと、他のクラスメートのように学部生の授業のTAをやるよりははるかに良い仕事だと思うので頑張ります。

最後となりますが、この学生生活をご支援してくださっている船井情報科学振興財団の皆様には厚く御礼を申し上げます。次回以降の報告ではこれまでの授業主体の報告から、研究に関する良い報告を差し上げられるように精進して参ります。